

## 教育学部 学部基幹科目（2022年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	科目概要
			学校や病院等、教育支援、臨床心理学的援助が要請される領域の諸問題に積極的に取り組み、問題解決する実行力を身につけている	教育学あるいは臨床心理学に関わる研究の基礎的方法論を修得するとともに、大学院進学希望にも対応できる十分な資質・能力を身につけている	教育学や臨床心理学に関わる基礎的な知識・技能および応用力を有し、さらに、それらの領域で情報通信技術を活用できる技能を身につけている	人間を理解する心を涵養し、社会的な常識を有し、社会の幅広い年齢層の人たちと協働できる人間関係能力を身につけている	
学部基幹	教育原論	1			○	○	<p>教育という営みは歴史や社会の変遷のなかで生成され、今も未来に向かって変化し続けています。バックミラーを見なくては自動車を安全に運転できないのと同じように、未来に向かって教育を考えるには過去を振り返ることが有益です。この授業では、歴史のなかで現れてきた教育に関するさまざまな思想をととして現代の教育を構成している基本的な概念について学びます。</p> <p>しかし、過去の思想を個別に知識として学ぶのでは、それを現実の行動に活かすすべについて考えるのは難しいでしょう。そこでこの授業では、私たちが教育について陥りがちな思考のワナを10に絞り、そこから教育の歴史のなかでどのような考察がなされたのかを学び、現代教育の基本的な概念につながっていることについて考えます。</p> <p>広く深く学ぶため、テキストブックを指定し授業時間外の学修を確保し、授業では事前の学修を前提に講義を行うほか、映像の視聴やグループディスカッションを取り入れます。</p> <p>到達目標1に関しては、基礎的な事項を確実に修得するという観点から第7回と第14回の授業で振り返りのテストを実施・解説します。到達目標2、3に関しては、第15回の授業で行う振り返りのディスカッションをもとにレポートを作成してもらいます。</p>
	教育相談の理論及び方法	3	○	○		○	<p>学校で行われる教育相談の意義を理解し、具体的な進め方が習得できるよう、幼児、児童及び生徒の発達を理解した上で、支援をするために必要な基礎的知識の習得を目指す。具体的には、①全幼児、児童及び生徒を対象とした日常的な学校教育場面での教育相談のあり方について理解を深め、実施できること、②課題を抱えた幼児、児童及び生徒を理解し支援する姿勢を養うこと、③保護者や学校以外の専門機関との連携の必要性を理解し連携できることの3つの力を習得するを中心に授業を行う。そのために、グループでの発表や討議を通して考察を深めたり、カウンセリングの技法やアセスメントを学んだりといった体験を取り入れ、実践力を養う。</p>
	特別な教育的ニーズの理解とその支援	3	○	○		○	<p>通常の学級にも在籍している様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難さを理解し、個別の教育的ニーズに対応していくために必要な知識や指導方法を学ぶ。</p>

## 幼児教育学科 専門科目（2022年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学に関わる理論的知識と保育に関わる実践的知識を有し、幼児教育・保育現場での問題の解決に取り組むことができる	保育職の重要性を自覚し、保育者として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	幼児教育・保育現場をはじめ幼稚園・保育園・認定こども園の一人員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科基礎	入門ゼミ	1		◎		○	○		教育学部での学びを円滑に進めるために、教育学科のポリシーや教育内容を理解するとともに、教員の使命、求められる資質や能力について学ぶ。また、大学生として必要な学び方の技法（文献検索手法、レポートの書き方等）について学ぶ。
	教育学基礎演習 1	3		◎		○	○		1年生での教育に関する学習を踏まえ、教育学に関する基礎的な内容について、少人数で、学習を深めていく。大学で学んで行くうえで主体的で自律的に学ぶ姿勢をもつことの重要性を理解し、探求心をもって学ぶ面白さに触れ、それらに必要な学び方を習得する。
	教育学基礎演習 2	4		◎		○	○	○	専門的学習への礎となる教育に関する学習を深めていく。その際、少人数での主体的・対話的で深い学びとなるように授業を展開する。教育に関わる種々の議論や現場の実態などについて広く深く理解していくとともに、教育者を指すものとしての自覚と課題を明確にする。教育に関わるテーマについての「学び方や考えの深め方」を身に付け、教育研究の基礎的素養を身につける。
	教育心理学	1	◎	○	○				幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学の理論に基づいて認識を深める。まず、運動・認知・言語・社会性・自己認識の発達を踏まえつつ、人間の情報処理・動機づけ・社会的相互作用の観点から、学習活動や集団生活における子どもの心理に影響する要因整理を試みる。また、新しい保育実践、授業・評価方法、集団作り・学級運営を紹介し、子どもの主体的な活動を支援する保育者・教師の役割を明らかにしていく。
	教育心理学 2	2	◎	○	○				まず、人間の生涯発達に関する心理学の知見を提供し、初期経験の重要性・発達期の移行・発達課題の克服について論考する。特に、乳幼児期の身体感覚を伴う活動経験の広がり・基本的生活習慣の形成・仲間関係の中での自己統制などに着目し、発達課題に応じた保育実践のあり方について理解を深める。また、親子関係や保育者・子ども関係について、基本的な信頼関係形成の観点から再考を促し、子どもの主体性を育む保育者の働きかけや園の取り組みのあり方について検討を加える。
	教育社会学	1	○	◎		○			高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進したが、その反面で、さまざまな「ひずみ」や教育病理も生み出し、学級経営の課題となっていることが少なくない。 本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会的に明らかにしていくことを目的とする。具体的には、「いじめ」「学力低下」といった学校現場に直接起因する問題を中心に取り上げる。
	教育社会学 2	2	○	◎		○			高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進したが、その反面で、さまざまな「ひずみ」や教育病理も生み出し、学級経営の課題となっていることが少なくない。 本講では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会的に明らかにしていくことを目的とする。その際にキーワードとなるのは、「いじめ」「学力低下」「国際化」「教育改革」「若年就労問題」などである。
	教師・保育者論	2		◎	○	○	◎		教師・保育者になることを志望する学生に、学校・園における教師・保育者の仕事の実態を歴史的に具体的に示しつつ、「教える」「保育する」という行為を成り立たせるために必要な教師・保育者の能力について考察する。併せて幼小連携・幼保連携の観点から、教育・保育の専門職として教育の制度について理解し、教師・保育者に求められる知識・資質・専門性・連携等について考える。
	幼児教育・保育課程論	2		◎	○		○		教育課程・保育課程、指導計画、保育の展開、評価、記録の方法などの意義や特徴について実践的な観点から理解する。実践されている教育課程・保育課程、指導計画をもとに幼児の発達に応じたカリキュラムの編成、指導計画の作成について学ぶことを通し、体系的指導力の育成を図る。
幼児理解及び保育相談	3	◎	◎	○	○			子どもの発達過程や幼児理解の方法に関する理論・方法を踏まえた上で、幼児教育場面における問題の捉え方や保育相談の意義・方法について探究する。また、基本的生活習慣・社会性・発達障害などに関わる具体的な問題を取り上げて考察し、育児にかかわる保護者支援のあり方について理解を深める。実践力を身につけるため、ロールプレイや討議等を多く取り入れる。	
保育原理	1	○	◎	◎				保育とは何か、という保育の本質、保育の歴史・現状と制度などについて学ぶ。保育者をめざす者として、子どもの権利保障という視点、基盤となる子ども親と発達親について理解を深める。そのうえで、保育の歴史・思想、現状と制度など保育についてマクロレベルで考察し、理解する。保育の意義を理解し、保育所保育指針における保育の基本について、目標・方法・内容の観点から学ぶ。また、現在の保育の背景となる保育思想と歴史的変遷について学習した上で、保育の現状と課題について考察する。	
教育哲学	2		◎	○	○			教育は現在と未来の人生にとって不可欠な営みですが、ではなぜ過去の思想を参照する必要があるのでしょうか。「木を見て森を見ず」という言葉がありますが、教育は眼前の課題であり、それに対応しようとするあまり、全体的・総合的にとらえられなくなってしまうことが少なくありません。この意味で、過去の思想は、少し距離をとりながら現実の思想を見つめるための止まり木として有効なのです。また、深く広く物事を考えた思想家の歩みについて理解を深めることは、知識基盤社会においてももっとも重要な能力とされるリテラシーを高めるためにも有効です。 この授業では、広く深く学ぶため、テキストブックを指定して授業時間外の学修を確保し、授業では事前の学修を前提に講義を行うほか、映像の視聴も取り入れます。到達目標に関しては、第14回の授業で小論文の作成を行い、第15回の授業でフィードバックを行います。	

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学に関わる理論的知識と保育に関わる実践的知識を有し、幼児教育・保育現場での問題の解決に取り組むことができる	保育職の重要性を自覚し、保育者として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	幼児教育・保育現場をはじめ幼稚園・保育園・認定こども園の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科基礎	教育史	1		◎	○	○			教育にかかわる思想や制度がどのように変遷してきたか、日本と西洋を比較しながら歴史的に考察する。授業は日本教育史を中心に置き、明治維新後の教育の近代化、1945年敗戦後の教育改革を2つの柱として進め、教育史上の特徴的な人物・機関・法令等に関する思想や理念に関する基礎的な用語を習得する。現代の教育のあり方に関心を持ち、その問題点について考察する力を身につける。
	教育人間学	3	○	◎	◎				「教える・学ぶ」ということでは、教育は交換の一形態のように見える。教育が交換であるなら、教育は「発達」や「社会化」といった概念の下、通常科学で捉えることができるが、そのような理解は教育の不思議さを隠蔽することになる。しかし、教育の「起源」を考えると、教育は違った姿を示すことになる。理論的な起源論を考えるかぎり、教育は「贈与の一撃」にはじまるというしかない。この一切の見返りを期待しない贈与という事象は、これまで教育学で問われることのなかった人間学的事象である。漱石・賢治の作品を手がかりに、贈与と交換について教育人間学の立場から考察し、同時に贈与と交換から教育人間学について考察する。
	教育行政学	1		◎	○	○			法律などの形で示された理念や教育政策をいかに効果的に実現していくのか。それを考え、具体化していくのが教育行政の役割である。近年、教育行政・制度は大きく変化している。授業ではまず、これまでの改革の経緯も踏まえて、現在どういった形で教育行政・制度が成立しているか、その全体像を広く理解することを目指す。そのうえで、現状の制度の課題を踏まえ、より効果的な行政・制度のあり方について考える。
	教育行政学2	2		◎	○	○			教育行政学で学習した学校における制度的・行政的事項についてさらに議論を深める。特に、「チームとしての学校」答申に注目し、今後の学校に期待される多職種連携・地域との協働に関して、現在どのような制度的・社会的状況にあるかを把握したうえで、今後の行政・制度のあり方について議論を行う。
	臨床教育学	3	◎	◎		○			近年、わが国の人文・社会科学の分野では、「臨床の知」あるいは「フィールドワークの知」に対する関心が急速に高まっている。それは教育界とて例外ではない。個人が抱える問題を、個人が生活する場との関係で把握しなおし、家族や学校の他のメンバーに働きかけて問題の解決を図ろうとする「関係論」的、あるいは「システム論」的な見方が注目されるようになってきている。学校臨床教育学では、子どもと教師の人間関係や子どもと親の人間関係、子どもと社会との関係などの視点から彼らの成長の道筋をたどり、今、学校で起こっている事象についてどのような解釈が成り立ち、その背景となる臨床事例にどのようにアプローチしていけばよいのか考える道筋をたてることのできるようになることを目的とする。
	学校経営論	3		◎		○	○		現在、学校現場を取り巻く問題は多数存在する。「いじめ」「不登校」といった社会的な問題をはじめ、保護者対応や教員倫理の問題等、よりよい学校を運営していく上での課題は多い。本講座では、こうした現代の教育課題を踏まえ、学校経営についての概説、事例を通して、これからの学校経営に必要な視点について総合的に学ぶ。
	学級経営論	3		◎		○	○		学級担任は、学級集団の支持的風土の醸成を目指し、経営計画を立案し、実施する。そこでは、ハード面、ソフト面から各学級の実情を考慮し、よりよい学級づくりを進めることが求められる。本講座では、こうした現代の教育課題を踏まえ、学級経営についての概説、事例を通して、これからの学級経営に必要な視点について総合的に学ぶ。
	発達心理学	3	◎	◎	○				幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程について、心理学の理論に基づいて認識を深める。具体的には、① 養育者とのかかわりによって子どもの情緒が安定し、身体運動および知的運動能力の発達が促される、② 養育者・保育者から受け止められる経験を通して子どもの健全な自我が形成され、仲間とのかかわりのなかで自己表現の力が養われる、③ 教師や仲間との率直なコミュニケーションを通して自己実現の機会が保証されることによって、子どもの知的発達・自己認識が促される、の3点について、具体的なかかわり場面を想定しつつ考察を加える。
	比較教育学	3		◎	○	○			私たちは日本の教育制度のなかで、小学校から大学まで教育を受けてきたものが大多数である。日本の教育の当事者として私たちは日本の教育をよく知っていると思いがちであるが、外国の教育のさまざまな側面と日本を比較することによって、日本の教育の新たな特徴や、これまで気づけなかった特異性を自覚することがある。本講義では、毎回教育の異なるトピックを取り上げ、それについて比較教育学の最新の知識を提供することによって、受講生は世界の主要な国々の教育の最新の動向や課題を知り、それぞれの国の教育の持つ特徴や独自性、固有の風土、地域連携や学校安全への取り組みなどを理解するとともに、自分なりの新たな日本の教育の位置づけについて考察する。
	教育法規	3		◎	○	○			学校教育は、公教育として国の法令や自治体の条例・規則で運営されている。このことを踏まえ、教員が行う日々の教育活動が法的根拠に基づき、法的な裏付けのもとに行われている事を確かめる。また、コンプライアンス(法令遵守)の視点から、教員としてとらねばならない行動や対応を、具体的な事例を通して考える。
教育評価論	3	○	◎	○				評価とは、学習指導によって得られた結果が、指導の目標に到達しているかどうかをみることである。このことは、学習によって生じた変化を目標に照らして判定し、その後の学習指導をどのようにしたらよいかを考える一連の過程でもある。指導と評価の一体化が求められる今日の状況を踏まえ、本科目では、教育評価に関する基本的な考え方とともに、授業に生きるスキルを身につけることを目指す。	

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学に関わる理論的知識と保育に関わる実践的知識を有し、幼児教育・保育現場での問題の解決に取り組むことができる	保育職の重要性を自覚し、保育者として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	幼児教育・保育現場をはじめ幼稚園・保育園・認定こども園の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科専攻	障害教育総論	3	◎	◎	○	○			現在、障害のある子どもの教育はすべての学校教育において重要なものになっている。そのため、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、発達障害、言語障害といった障害のある子どもの教育の変遷を知り、特殊教育から特別支援教育に移行した意義を理解する。また、特別支援教育の理念や概要を知り、特別支援教育における教育課程を理解した上で、特別支援教育で求められる教育支援について学ぶ。障害者の権利に関する条約の批准と国内法等の環境整備、障害者差別解消法が目指す社会についても学び、障害を取り巻く情勢や特別支援教育における今日的課題についても考察する。
	教育学演習1	5		○	○	○		◎	教育学研究を推進していくための基盤を養う。先行研究をはじめとした文献の調査・発表・討議を中心に行い、教育学研究の基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、自らの研究の方向性を模索する。個別研究や集団討議を重ねることで多様な考え方に触れ自身の研究能力の向上につなげる。
	教育学演習2	6		○	○	○		◎	教育学演習1を踏まえ、卒業研究を進める上で必要となってくる基礎的な知識・技能を身につけ、思考力・判断力・表現力を養う。研究テーマに近い研究論文を例として、目的と方法を理解し、データの収集、データの分析、結果のまとめ、考察までの一連の流れを追試する。個別研究や集団討議を重ねるとともに、教育・保育の研究基礎力を身につける。
学科専攻	卒業論文演習1	7		○	○	○		◎	卒業論文を進めるにあたって、研究テーマの設定、研究計画の作成、文献調査・収集、実験等の方法、調査・分析方法など、研究の進め方とその実践について学ぶ。具体的には、先行研究の調査、目次（章節立て）の素案作成、実態調査、教材開発、授業分析、データの収集・分析を行っていく。
	卒業論文演習2	8		○	○	○		◎	卒業論文演習1で実施した研究を進め、得られた結果を図表で表示し、発表・討議を通して研究成果を卒業論文としてまとめる。ゼミ活動での研究討議を行い、研究の集大成として卒業論文の執筆を行う。加えて抄録の作成や研究発表の方法についても学ぶ。
	卒業論文	8		○	○	○		◎	4年間の大学での学びの集大成としての卒業論文を執筆・提出する。卒業論文は、教育学に関する諸科目の学修と教育実習など実施を踏まえ、教育学基礎演習1,2、卒業論文演習1,2で培った研究能力をもとに、自らの研究テーマに沿った必要な研究指導を受けた上で提出される。研究内容に関する試問を受け適切に回答を示すことが求められる。
	保育の内容及び方法	3		◎	◎		○		「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史の変遷について考察し、平成30年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通してより保育内容・方法の理解を深め、「環境を通しての保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを、具体的な指導技術に繋げて学習する。
	幼児と健康	1	○	◎	○				運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合う。保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開する。受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について考えることを促す。
	幼児と人間関係	1	○	◎	○				現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。
	幼児と環境	1	○	◎	○				幼稚園教育要領の領域「環境」について、ねらいと内容を理解し、実践的指導力につながる専門性を学習する。自然環境を活かした実践方法や、環境構成の実践方法につながる専門性を学習する。テキスト、視覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬実践、レポート作成等を通して、専門的知識を身につける。
	幼児と言葉	1	○	◎	○				幼稚園教育において育みたい3つの資質・能力（「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」）や、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を理解した上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容についての理解を深める。さらに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びの過程を踏まえ、領域「言葉」のねらい達成に繋がるような指導場面を想定した保育の構想ができる力を身に付ける。
	幼児と表現（造形）	1	○	◎	○				幼稚園教育要領に示された幼児の造形表現に関する目標や内容を理解し、造形表現題材開発をする中で、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
	幼児と表現（音楽）	1	○	◎	○				幼児にとって音楽の果たす役割や意義を理解し、幼児の成長発達を促す保育者の音楽的アプローチ法を探る。具体的には、音楽の仕組み（理論）や幼児の音楽的特徴を理解し、保育に必要な歌唱技術を身につけることによって、音楽の楽しさや魅力を再確認する。
	幼児と表現（身体）	1	○	◎	○				幼児が身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを身体的に表現する力の醸成を目指す。幼児が生活や遊びにおいて体験していることを把握することが基盤であることを理解し、幼児の感じたことや考えたことを自分なりに身体的に表現することを通して、創造性を豊かにすることを旨とする。
	保育内容の理論と方法「健康」	3	○	○				◎	幼児期の心身の発達過程を捉え、その発達を支える為に必要な保育者の援助について学び実践できる力を養う。具体的に運動機能の発達と幼児期にふさわしい運動あそびを通して、「健康」に関する基本的な生活習慣、安全に係る自覚のための指導、それらに伴い必要とされる保護者との連携など保育者の役割について考察する。
保育内容の理論と方法「人間関係」	3	○	○				◎	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。	

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学に関わる理論的知識と保育に関わる実践的知識を有し、幼児教育・保育現場での問題の解決に取り組むことができる	保育職の重要性を自覚し、保育者として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	幼児教育・保育現場をはじめ幼稚園・保育園・認定こども園の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科専攻	保育内容の理論と方法「環境」	3	○	○				◎	幼稚園教育要領の領域「環境」について、ねらいと内容を理解し、その指導法を習得する。乳幼児の発達・成長に人的環境や物的環境、自然環境や社会環境が重要な役割を果たしていることを理解し、自然環境を活かした実践方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。テキスト、視聴覚教材を中心とした講義、グループ討議、模擬保育指導、レポート作成等を通して、実践的指導力を身につける。
	保育内容の理論と方法「言葉」	3	○	○				◎	言葉を育む児童文化財とは何かを理解し、児童文化財の精神(こころ)と技術の習得のために絵本を中心としてさまざまな文化財を提示する。創作活動を通し、児童文化財へのさらなる理解を深めるとともに、言葉に対して多角的に考えるきっかけを提供する。
	保育内容の理論と方法「造形表現」	3	○	○				◎	乳幼児における表現活動の大切さと、こどもの発達過程を基盤とした造形的な表現の特徴を理解する。実際に材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材を通じて、手の動きによる描写や造形、描画材の特徴の理解及び表現技法の習得と活用、素材を用いた立体物や玩具等の製作体験を交えながら、実践での造形教育活動を行うにあたり、環境構成を踏まえた指導計画書の作成や、援助のあり方についての知識を関連づけながら学習を深める。
	保育内容の理論と方法「音楽表現」	3	○	○				◎	表現領域(音楽)に関する保育実践のための基礎的な知識と表現・指導技術を高める。具体的には、幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」の基本理念をふまえ、表現領域に示すねらいの趣旨に基づき、幼児の音楽表現指導を行う上で必要となる基礎的かつ実践的な内容を学ぶ。
	保育内容の理論と方法「身体表現」	3	○	○				◎	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、「幼稚園教育要領」に示された「表現」領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な身体表現に係る指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
	人権(同和)教育	3		○	○			◎	ワークショップやフィールドワークを通して被差別部落問題の現状と今日的課題を考える。また被差別部落を含む小中学校などにおける人権同和学習の参観、保育所や児童館における子どもの人権保障に関わる保育参観・観察・参加、また夜間中学校・朝鮮学校での観察参観をとおして識字学習・異文化教育の実践に学ぶ。
	ICTの活用及び教育	3		○			○	◎	学校教育でICTを活用するためには情報機器、ソフトウェアが使えることはもちろんのこと、実際の授業の中で実践できる必要がある。本授業ではICT活用教育の現状を理解すると共に、主要な情報機器、ソフトウェアの利用技術、および実際の活用事例、活用する際の利点と配意点について学習する。授業では、学生が有する情報機器を用いたリアルタイム質疑応答システム、eラーニングシステムを併用する。
	国際理解教育演習	3		○	○			◎	ハワイ大学マノア校(ホノルル)で行う研修(2月下旬の2週間)を中心的な活動に据え、小学校英語の教授法を学びます。ハワイ大学教育学部は、これまでに、英語を母語としない子どもたちに対する英語教育に特化した様々なカリキュラムを開発してきています。この講座では、そのハワイ大学において、指導経験豊富な教授陣が、同じく英語を母語としない日本の子どもたちに向けた小学校英語の教授法を、日本の小学校英語教材「We Can!」を用いて展開していきます。研修前には、英語コミュニケーション力を高める活動も行います。また、「We Can!」を用いた授業実践を議論し、「We Can!」付属のICT教材を活用した授業を実際にデザインしていきます。現地でのさまざまな研修プログラムに参加し、現地の小学校での授業実践を最終到達点とします。
	子ども家庭福祉	2	○	◎	◎				子ども家庭福祉の意義および歴史の変遷を学び、子どもの人権擁護に対する理解を深めていく。子ども家庭福祉の制度および実施体系等の具体的展開を学び、現代における子ども家庭福祉をめぐる少子化や虐待、子どもの貧困といった現状および課題を考察する。
	社会福祉援助技術論1	3		○				◎	○
子ども家庭支援論	5		◎				◎	○	保育士は乳幼児に限らず、学齢児から高齢者までの各ライフコースの対象者とも接する。生涯発達の基礎的知識とともに、現代の家族・家庭を取り巻く社会的諸課題とその影響について当事者の立場にそった理解を確かなものにしていく。本授業では、家族・家庭の置かれている現状や課題を取り上げながら、保育者に求められている家族・家庭への支援のありようを考えていく。
社会的養護1	3	○	◎				○	○	社会的養護を必要とする子どもとその家族に対する援助について学ぶ。具体的には、現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷を理解する。子どもの人権擁護を基盤とする社会的養護の制度と実施体系、その対象と形態、それを担う専門職について学ぶ。これらの学びを踏まえ、社会的養護の現状と課題を考察する。
子ども家庭支援の心理学	3	○		◎			○		まず、人間の生涯発達に関する心理学の知見を提供し、初期経験の重要性・発達期の移行・発達課題の克服について論考する。特に、乳幼児期の発達課題と保育について理解を深める。また、子どもの健全な発達にとっての家族・家庭の機能や意義を論じたうえで、親子関係や家族関係について再考を促し、子どもの精神保健と問題への対処について検討を加える。そして、子育て家庭をめぐる現代日本の社会状況と課題を取り上げる。ライフコースの歴史の変遷をとらえながら、晩婚化・非婚化をめぐる社会状況などについて解説する。さらに、様々な課程の状況や課題に言及して、保育者としての支援のあり方について具体的に考察を行う。
子どもの保健	3	○	◎					○	子どもの心身の健康を図る保健の意義、特に子どもの貧困問題や子ども虐待といった現代社会における社会的な課題を理解する。子どもの発育・発達と保健との関係を知ることで、事故あるいは疾病について学びその予防及び適切な対応を理解する。知識としてのみならず実技や演習を通じて救命救急および予防接種の実践を身につける。現代社会における子どもと家族の心の健康問題・地域保健活動にも視野を広げ、視野広く理解する。

区分	科目名	履修開始セメスター	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学に関わる理論的知識と保育に関わる実践的知識を有し、幼児教育・保育現場での問題の解決に取り組むことができる	保育職の重要性を自覚し、保育者として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	幼児教育・保育現場をはじめ幼稚園・保育園・認定こども園の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科専攻	子どもの食と栄養	5	○	◎		○		○	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。そして、食育の基本とその内容、および食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する。家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び、さらに特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。
	乳児保育1	3	◎	◎	○			○	乳児保育の基本理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶとともに、乳児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満児の発育・発達特徴について学び、ふさわしい生活や遊びについて理解する。さらに、乳児を対象とした視覚教材等を用いて、保育士の仕事や保育施設で生活する乳幼児の姿について学習し、乳児保育についての実践的な感覚を養う。
	乳児保育2	5	◎	○		○		○	乳児保育の実践について理解を深めるとともに、乳児モデル(人形)等を用いて具体的な援助の方法を学び、実践につながる保育技術の習得を目指す。また、乳幼児の発達に応じた保育環境の構成や保育計画・保育記録について学び、保育実践力の基礎を習得する。多様化する乳児保育の現場に求められる保育士の職能について理解を深め、保護者や関係機関との連携についても学ぶ。
	子どもの健康と安全	5	◎	○				○	保育における保健的観点から踏まえた保育環境や援助の理解を基盤に、子どもの発達に即した体調管理や保健的対応等の実際を理解する。加えて、子どもの健康及び安全に関する地域等との組織的取組や保健活動の計画及び評価について理解する。
	障害児保育	3	◎	○				○	障害の特徴も踏まえた子どもの発達の理解のあり方や障害のある子どもの保育の実際について学ぶ。具体的には、権利が平等に保障されるために追加の支援を必要とする子どもへの保育であることを理解する。具体的には、障害の種類やその特性の理解はもちろんこと、何らかの支援を必要とする子どもたちの実態も踏まえ、「権利の平等性」と「追加の支援」を統一的に理解していく。
	社会的養護2	5	○	○		○		◎	児童養護の理念、概念の総合的理解を基盤に、演習等を通して社会的養護を実施するうえで必要な知識や技術を習得する。様々な社会的養護の実践現場における児童の生活やワーカーの援助について具体的に理解し、児童観・養護観を深める。また、地域社会における社会的養護の果たす役割、職員の専門性について検討する。
	子育て支援	3		◎	○			◎	子育て支援の必要性を理解し、保育士が行なう具体的な取り組みの演習や実践をする。具体的には、子育て支援の意義や実践における基本的な視点について学ぶ。現代の子育てをしている保護者をとりまく種々の状況を理解した上で、具体的な支援の展開過程を具体的な実践(内容・方法・技術)を通じて実践的な理解を深めていく。
	保育実習1A	6	○	◎	○			◎	保育所での実習を通して乳幼児の理解を深める。保育所保育についてこれまで学んできたことを基礎に、実習のなかで観察し体験した諸事実を考察する。また、保育実践の体験を通して、保育士の業務を理解し、自らの実践力を養うと同時に、実践で学んだことを理論化できるように整理する。
	保育実習1B	6	○	◎	○			◎	保育所以外の児童福祉施設での実習を通して乳幼児の理解を深める。児童福祉施設についてこれまで学んできたことを基礎に、実習のなかで観察し体験した諸事実を考察する。また、児童福祉施設における保育実践の体験を通して、保育士の業務を理解し、自らの実践力を養うと同時に、実践で学んだことを理論化できるように整理する。
	保育実習指導1(事前)	5		◎	○			○	保育実習1A,1Bの事前学習である。実習の意義と目的を理解し、保育実習の基本的内容を学習する。保育所および児童福祉施設についての理解を深め、実習にむけての心構えを形成する。また、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解を深める。
	保育実習指導1(事後)	6		◎	◎		○	○	保育実習1A,1Bの事後学習である。事後指導において、保育実習を振り返り、総括と自己評価を行い、新たな課題や学修目標を明確化する。また、実習報告書を作成し、教員との面談・ゼミ内での課題共有を行う。
	保育実践演習	8	○	◎	○			◎	保育士課程での学びや保育現場での体験の軌跡を振り返ることで自らの到達点と課題を自覚し、本演習を通じて保育士として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。特に、人権を尊重する視点やその現場での実践を中心とした学びの振り返りから、社会的諸課題に対する保育士の役割を検討する。
	ピアノ指導1	1		◎				○	保育における音楽活動を行う上で必要となる「ピアノ演奏能力」を向上させるためのレッスンを中心として授業を展開する。保育所、幼稚園の採用試験に合格することをめざして、ピアノ演奏やピアノ弾き歌いができるようなプログラムが組まれる。個人のレベルに合わせ、基礎的なピアノ演奏法を習得する。
	ピアノ指導2	2		◎				○	保育における音楽活動や、小学校音楽科授業を行う上で必要となる「ピアノ演奏能力」を向上させるためのレッスンを中心として授業を展開する。個人の能力に合わせて課題を設定し、ピアノ演奏や弾き歌いの演奏技術を習得する。
	ピアノ指導3	3		◎				○	保育における音楽活動や、小学校音楽科授業を行う上で必要となる「ピアノ演奏能力」を向上させるためのレッスンを中心として授業を展開する。個人の能力に合わせて課題を設定し、ピアノ演奏や弾き歌いの演奏技術を習得する。
	ピアノ指導4	4		◎				○	保育における音楽活動や、小学校音楽科授業を行う上で必要となる「ピアノ演奏能力」を向上させるためのレッスンを中心として授業を展開する。保育所、幼稚園、小学校の採用試験に合格することをめざして、ピアノ演奏やピアノ弾き歌いができるようなプログラムが組まれる。個人の能力や要望によっては、採用試験レベル以上の演奏能力を身につけるプログラムを組むことも可能である。
保育実習2	7	○	◎	○			◎	保育所における実習である。保育所での実習を通して保育実践について深める。保育所保育についてこれまで学んできたことや、「保育実習1」で学んだことを基礎に、実習を通して観察・体験した保育実践について考察する。また、「保育実習1」の学びを振り返り、自己の課題を明確にした上で実習に臨み、保育士の業務・役割についての理解をさらに深める。	

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学に関わる理論的知識と保育に関わる実践的知識を有し、幼児教育・保育現場での問題の解決に取り組むことができる	保育職の重要性を自覚し、保育者として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	幼児教育・保育現場をはじめ幼稚園・保育園・認定こども園の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
学科専攻	保育実習指導 2	7		◎	◎			○	保育実習 2 の事前・事後学習である。実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科内容を踏まえ、保育実践力を培う。保育の計画と観察、記録、自己評価等を踏まえ保育の改善について実践や事例を通して具体的に学ぶ。保育士の専門性と職業倫理について理解する。事後指導の中で、総括と自己評価を行い、自らの課題を明確化する。
	保育実習 3	7	○	◎	○			◎	保育所以外の児童福祉施設等での実習である。児童福祉施設での実習を通して保育士の仕事について深める。児童福祉施設についてこれまで学んできたことや、「保育実習 1」で学んだことを基礎に、児童福祉施設で働く保育士の仕事について考察する。また、「保育実習 1」の学びを振り返り、自己の課題を明確にした上で実習に臨み、保育士の業務・役割についての理解をさらに深める。
	保育実習指導 3	7		◎	◎			○	保育実習 3 の事前・事後学習である。実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科内容を踏まえ、保育実践力を培う。保育の計画と観察、記録、自己評価等を踏まえ保育の改善について実践や事例を通して具体的に学ぶ。保育士の専門性と職業倫理について理解する。事後指導の中で、総括と自己評価を行い、自らの課題を明確化する。
関連	教育原論 2	2		◎	○		○		歴史のなかで現れてきた教育に関する思想を再検討することに何の意味があるのだろうかと思うかもしれません。しかし、教育は誰もが経験している日常的な出来事であるために、冷静に距離をとってとらえることは容易ではありません。そこで、離れた時代や社会における教育に関する思想を学ぶことは、教育をとらえ直すための助けになるのです。そこで、最初に教育を思想的に問う意味を考えたいので、教育思想の歴史を 6 回にわたって概観します。その後、コメニウスをとりあげて個別の教育思想について深く学び、それをもとに現代の教育課題について考えます。 テキストブックを指定しますので精読してください。後半のコメニウスの教育思想に関して一題のレポートを課すうえ、前半の教育思想史概説に関して最終試験を実施します。
	教育実習（幼・小） 1	5	○	◎	○			◎	幼稚園教育の現場に学ぶことをねらいとする。実習幼稚園における教育実習を通して以下のことを学ぶ。1. 幼稚園において実際の保育を経験する中で、幼稚園の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼稚園の意義、保育者の責任を体得する。2. 現場保育者（園長・主任・指導教諭）の指導のもとで、大学で学習した知識・技能を総合的に応用し、幼児教育の本質的精神と保育技術を習得するとともに、保育者としての資質・使命感・能力を身につける。
	教育実習（幼・小） 2	5	○	◎	○			◎	幼稚園教育の現場に学ぶことをねらいとする。実習幼稚園における教育実習を通して以下のことを学ぶ。1. 幼稚園において実際の保育を経験する中で、幼稚園の活動と園児の生活の実際を具体的に理解し、幼稚園の意義、保育者の責任を体得する。2. 現場保育者（園長・主任・指導教諭）の指導のもとで、大学で学習した知識・技能を総合的に応用し、幼児教育の本質的精神と保育技術を習得するとともに、保育者としての資質・使命感・能力を身につける。
	教育実習指導（幼・小）	5		◎	◎			○	実習生としての姿勢や心掛けについて学び、幼稚園実習の意義と目的を理解する。また、幼稚園についての理解を深め、実習態度、実習記録・指導案の書き方等の実習の基本的内容を学習する。大学で学修した知識・技能を応用しながら、実習にむけての心構えを形成す
	教職実践演習（教諭）	8	○	◎	○			◎	教職課程の仕上げとして、教員の資質や人間関係、生徒理解や指導力等に関する事項を総論として再確認する。具体的には、教職課程での学びや大学生活における学校現場での体験の軌跡を振り返りながら、自己にとっての課題がどこにあるのかを自覚し、本演習を通じて教師として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。
	保育・教職実践演習（教諭）	8	○	◎	○			◎	保育士課程及び教職課程での学びや保育・幼稚園現場での体験の軌跡を振り返ることで自らの到達点と課題を自覚し、本演習を通じて保育士及び幼稚園教諭として必要な実践的資質能力や指導技術を高める。特に、人権を尊重する視点やその現場での実践を中心とした学びのふり振り返りから、社会的諸課題に対する保育士及び幼稚園教諭の役割を検討する。
	現場体験実習 1	1	○	◎		○		○	幼・小・中・高・特別支援学校等学校教育現場および生涯教育現場における現場体験を通して、教育体制や教員の業務を体験、学習する。教育に関する専門的学習を踏まえ、平時の保育の観察実習から参加・体験的な実習を行うことによって、一日の保育の流れや活動内容を理解する。また、現場体験を通して幼児とのかかわりについて学ぶ。
	現場体験実習 2	2	○	◎		○		○	幼・小・中・高・特別支援学校等学校教育現場および生涯教育現場における現場体験を通して、教育体制や教員の業務を体験、学習する。教育に関する専門的学習を踏まえ、園の行事や特別活動等の観察実習から参加・体験的な実習を行うことによって、行事の在り方や行事における幼児の様子と教師の役割について理解する。
	現場体験実習 3	3	○	◎		○		◎	幼・小・中・高・特別支援学校等学校教育現場および生涯教育現場における現場体験を通して、教育体制や教員の業務を体験、学習する。教育に関する専門的学習を踏まえ、観察実習から参加・体験的な実習を行うことによって、教職・保育職についての理解と幼児理解を深める。さらに幼児とのかかわりを通じてコミュニケーションスキルを高める。
現場体験実習 4	4	○	◎		○		◎	幼・小・中・高・特別支援学校等学校教育現場および生涯教育現場における現場体験を通して、教育体制や教員の業務を体験、学習する。教育に関する専門的学習を踏まえ、観察実習から参加・体験的な実習を行うことによって、教職・保育職への志を高めるとともに、幼稚園教育実習にむけての個々の課題を明確にする。	

区分	科目名	履修開始 Semester	1	2	3	4	5	6	科目概要
			子どもの内面を深く理解し、その成長に寄り添い、自立させていくことのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学に関わる理論的知識と保育に関わる実践的知識を有し、幼児教育・保育現場での問題の解決に取り組むことができる	保育職の重要性を自覚し、保育者として自律でき、範を垂れる人間性を有している	社会的な常識や幅広い年齢層の人たちとのコミュニケーション能力を有し、諸問題に忍耐強く取り組むことができる	幼児教育・保育現場をはじめ幼稚園・保育園・認定こども園の一員として、他者と協働しながら業務を円滑に遂行することのできる能力を身につけている	幼児教育学・保育学研究の基礎的方法論を会得し、学んだ知識を大成して卒業論文にまとめる能力、また大学院進学希望者においては、より質の高い研究を遂行するための能力を身につけている	
関連	教育職インターンシップ1	3		○	○	○	◎		この講義は、「教育職インターンシップ・イクステンション」の成果に資するために、集中講義として位置づける科目であり、「教育職インターンシップ・イクステンション」と併せて受講する科目である。 京都府、京都市教育委員会、および滋賀県教育委員会所轄の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校で実務研修（12日以上かつ90時間以上）を行う。 教育実習が教科指導中心であるのに対し、教育職インターンシップでは教員の仕事を全般的に体験する。例えば、学級担任の補助（学級経営の補助、担任業務の補助、生活指導の補助、進路指導の補助）、教科指導の補助（授業補助、少人数指導の補助、個別指導の補助）、学校行事や児童会（生徒会）活動、部活動の指導補助、学校行事指導補助などである。
	教育職インターンシップ2	5		○	○	○	◎		この講義は、「教育職インターンシップ・イクステンション」の成果に資するために、集中講義として位置づける科目であり、「教育職インターンシップ・イクステンション」と併せて受講する科目である。 京都府、京都市教育委員会、および滋賀県教育委員会所轄の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校で実務研修（10日以上かつ80時間以上）を行う。 教育実習が教科指導中心であるのに対し、教育職インターンシップでは教員の仕事を全般的に体験する。例えば、学級担任の補助（学級経営の補助、担任業務の補助、生活指導の補助、進路指導の補助）、教科指導の補助（授業補助、少人数指導の補助、個別指導の補助）、学校行事や児童会（生徒会）活動、部活動の指導補助、学校行事指導補助などである。実務研修をとおして教職と地域の教育活動に対する理解を深める。
	教育職インターンシップ・イクステンション1	4		○	○	◎	○		教職の理解と教員に必要な資質・能力について理解をし、実務研修の振り返りとまとめを行う。 また、研修生交流会や最終報告会でのプレゼンテーションを行う。
	教育職インターンシップ・イクステンション2	6		○	○	◎	○		この講義は、「教育職インターンシップ」の実務研修の振り返りとまとめを行う。「教育職インターンシップ」と併せて受講する科目である。授業において、教職の理解と教員に必要な資質・能力について理解を深め、実務研修の省察を行い、教育職インターンシップでの実践を客観的に検証しつつ、学校教育の本来のあり方やその本質に迫る。また、研修生交流会や最終報告会でのプレゼンテーションを行うとともに、成果をまとめる。
	レクリエーション実技	3		○			○	◎	学校や園現場において、よりよい学習集団の構築を企図したとき、その一つの方策としてレクリエーション活動の展開が効果的に作用する。本講義ではレクリエーション実技を理解し、レクリエーション・スポーツや集団のゲームなどを体験する。レクリエーション支援（指導）案を作成し、支援（指導）者としてのスキルを獲得する。
	レクリエーション指導実習	3		○			○	◎	学校や園現場において、よりよい学習集団の構築を企図したとき、その一つの方策としてレクリエーション活動の展開が効果的に作用する。本講義では、特に学校行事（宿泊行事）を想定し、そこで必要なレクリエーションスキルの目的と獲得を目指すものである。 学内でのコミュニケーション実習（3時間） 学外での宿泊を伴う野外レクリエーション指導実習(2泊3日)
	レクリエーション概論	3			◎		○	○	スポーツ・レクリエーションは、現代社会においてどのような価値をもっているのだろうか。乳幼児期から高齢期までの間、それぞれのステージにおいてどのような関わり方をすることになるのだろうか。その実態と管理手法について考察する。
	宗教教育論	3			◎	○	○		近代日本における宗教と教育の関係は、切り離すことができない関係にあるが、課題も散見される。本講義では、「宗教の本質」についてどのようにその時代の人間が理解していたかを考察することを通して、宗教と教育の関係性について検討する。特に、「宗教的情操」に焦点を当てて、近代日本における宗教と教育の関係に検討を加えていく。
	視聴覚教育メディア論	3			○	○		◎	視聴覚教育の発展は、博物館や美術館を含む、広い分野における「教育」に多大な影響を及ぼしてきた。情報機器（伝達手段＝メディア）の進展は、そうした影響をさらに大きくしている。しかし、その一方で、「視聴覚教育とは何か？」という問題が複雑化したことも事実である。本講義では、視聴覚教育の歴史的展開を、技術史と併せて紹介することを通じて、視聴覚教育のあり方や本質について学ぶ。そして、各自が視聴覚教育の実践への活かし方を考えることに取り組んでもらいたい。
仏教音楽教育論	1			◎	○	○		仏教音楽とは、仏教の儀式で用いられる音楽、あるいは僧侶や信徒が仏教徒として演奏する音楽の総称である。地域や時代によって、民族性や歴史を反映した多くの種類のものがあるが、一般に大乘仏教が音楽性に富んでいると言われている。仏教行事に用いられる雅楽や、芸術的に洗練された日本の尺八音楽も、広義の仏教音楽に属する。本講座では、こうした仏教音楽の意義を教育学的視点から考	